

- 記事内容
- ☆平和行動in広島
 - ☆平和行動in長崎
 - ☆2018地域フォーラム／
夏休み親子自然体験教室2018「山の学校inときがわ」
 - ☆埼玉県最低賃金の改正決定について／
9月の行動予定表
 - ☆あけぼのビル

語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で 核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう

2018平和行動in広島・in長崎

平和行動in広島

8月4日(土)～6日(月)に「平和行動in広島」が開催され、連合埼玉から16名が参加した。初日は原爆ドーム、爆心地、爆心地から460mの距離にある袋町小学校平和資料館を見学。2日目は、午前中に広島平和記念公園内や平和資料館を見学し、午後からは原爆投下時、広島市内を走っていて被爆するも、現在も使用されている路面電車で広島市内の被爆地を車窓から見学。夕方は、連合主催の平和集会に参加し、被爆体験証言やNPT(核拡散防止条約)をめぐる現状の課題や今後の方向性を聞くことができた。最終日(8月6日)には広島市が開催した平和記念式典に参加した。

米国による原爆投下から73年が経過したが、いまもなお市内のいたるところに原爆被害の傷跡が厳然と残り、放射能障害に苦しむ方々もいる。

私たちは今回の平和行動で見聞きした、この凄惨な現実を風化させることなく次世代に伝え、核兵器廃絶と恒久平和のため、みずから成しうることに継続的に取り組んでいかなければならない。

平和を願うすべての人たちと連携し、恒久平和を目指して取り組むことの重要性を強く感じた平和行動であった。



平和行動in広島

平和行動in長崎

8月8日(水)～10日(金)に「平和行動in長崎」が開催され、連合埼玉から17名が参加した。8日は、連合主催(原水禁・KAKKIN共催)の「2018平和ナガサキ集会」に参加し、深堀讓治氏より被爆当時の貴重な話を聞いた。深堀氏からは、「きこの雲の下でおきた実相は、よく知られていない。広島・長崎のことは絶対に風化させてはいけない」と平和や核兵器廃絶に向けた想いが語られた。8月9日には「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に参加し、原爆投下時刻の11時02分に全員で黙とうをおこなった。午後からは「長崎原爆資料館」の見学と、爆心地公園にて連合長崎青年委員会の皆さんより被爆当時の遺品や石碑の説明を受けながら散策する「ピースウォーク」に参加した。また夕方からは、万灯流しに参加し、各々万灯に思いを書き込んだ。

原爆は、一瞬にして未来のある人々の人生を狂わせてしまい、多くの尊い命を奪ってしまう兵器だ。私たちが今回見聞きし、学んだ原爆被害を伝えることにより風化させず、その廃絶と世界平和にむけて運動を継続していかなければならない。




平和行動in長崎

日程		in 広島	参加者
1日目(8/4)	<p>■ピースウォーク①</p> <p>時間 15:30~17:00</p> <p>会場 袋町小学校平和資料館、原爆ドーム 島病院、広島城</p>		<p>佐藤 洪 (UAゼンセン埼玉県支部)</p> <p>十枝内晴男 (UAゼンセン/武州製薬ユニオン)</p> <p>高橋 三枝 (UAゼンセン/武州製薬ユニオン)</p> <p>坂巻 宣広 (JAM埼玉/アーレスティ労働組合関東東松山支部)</p> <p>西島 淳 (JP労組埼玉連絡協議会)</p>
2日目(8/5)	<p>■ピースウォーク②</p> <p>時間 9:30~12:00</p> <p>会場 本川町小学校平和資料館、平和公園 平和記念資料館</p> <p>■被爆路面電車乗車学習会</p> <p>時間 13:00~15:00</p> <p>会場 広島駅~広島港~原爆ドーム前</p> <p>■連合2018平和ヒロシマ集会</p> <p>時間 16:00~19:30</p> <p>会場 広島産業会館・西展示館</p>		<p>横山 勝成 (運輸労連/セイノスーパースーパーエクスプレス労働組合武蔵野支部)</p> <p>小笠原 崇 (川越・西入間地域協議会/東京電力労働組合川越支部)</p> <p>藤田 勇 (朝霞・東入間地域協議会/日本梱包運輸倉庫労働組合)</p> <p>関根 孝 (比企地域協議会/ヴァレオジャパン労働組合)</p> <p>川西 輝明 (西部第四地域協議会/榎本チエイン労働組合埼玉支部)</p> <p>斎藤 昭博 (東部地域協議会/東京電力労働組合春日部支部)</p> <p>山本 聖 (東部地域協議会/越谷市職労働組合)</p> <p>鷲巢 智樹 (北埼玉地域協議会/ショーワ労働組合埼玉支部)</p> <p>塚原 美臣 (連合埼玉青年委員会/JAM埼玉)</p> <p>並木美千代 (連合埼玉女性委員会/JP労組県央支部)</p> <p>芳賀 剛志 (連合埼玉副事務局長)</p>
3日目(8/6)	<p>■「原爆死没者慰霊式・平和記念式典」(広島市主催)</p> <p>時間 8:00~</p> <p>会場 広島市平和記念公園 原爆慰霊碑前</p>		


①平和行動に参加したのは何回目ですか? ②何を目的に参加しましたか? ③感想

①2回目
②平和について改めて考えるため
③平和行動in広島に参加させて頂いて良かった、そう強く思う行程であった。袋町小学校平和資料館では、校舎内の壁面に数々の伝言が残されており、正に被爆直後の証言を実際に直接見ることが出来、自分自身が被爆しながらも、何とか知らせようとするその気持ちに思いを馳せると、胸が苦しくなるようであった。また、広島平和記念資料館においては、戦争の悲惨さや惨状が、被爆者の遺品、資料や写真にて展示・紹介されていたが、特別展示室に掲げられていた「国にとって父は何十万の内の1人ですが、私たちにとって父は、全てだったので」この言葉は、涙なくしては見れないものがあった。




佐藤 洪

①初めて
②過去の歴史から平和の大切さを考える機会として
③「ヒロシマ」。カタカナで書かれたこの地名は、原爆と戦争という言葉しか浮かばない。爆心地から近い小学校、当時も走っていた路面電車、原爆ドーム、資料館と歴史の傷跡に触れるにつれ、人間も持つ愚かさを思い知らされた。また、その悲しい出来事の中で助け合い、互いに力を合わせ、思いやり懸命に生き抜いた人々がいたからこそ今日の平和があることを忘れてはいけないと強く心に刻まれた3日間だった。




十枝内 晴男

①初めて
②戦争について改めて考えてみたいと思った。
③8月6日、広島に原爆が投下し、約14万人の方が亡くなったと推計されている。袋町小学校の壁面の被爆者の伝言メッセージが一番印象に残った。これから戦争を経験した方々が少なくなるが、平和行動に参加して、原爆や戦争の悲惨さなどを後世に伝えなければならぬと感じた。




高橋 三枝

①初めて
②核廃絶・平和の為どのような活動がされているのか肌で感じたかった。
③戦争は遠い昔の事と考えていたが、被爆した列車がまだ現役で走っていたり、袋町小学校も平成14年まで現役で使われており、壁を剥がしたら、被爆直後のメッセージが未だに残っていて、平和の為には歴史を風化させてはいけない事だと改めて感じた。多くの方に参加して頂き、被爆直後のことを肌で感じて頂きたいと思った。私の子供がもう少し大きくなったら一度広島へ連れて行きたいと思う。




坂巻 宣広

①初めて
②戦争の悲惨さを学ぶため
③73年前に広島に原爆が落とされたことはテレビや教科書でしか知らない。昔のこと、人ごとだったが、今回の平和行動で実際に原爆が落ちた地、被害に遭われた方達の話聞き、見て、想像を超える状況なんだと思った。これからの人達に戦争の恐ろしさを伝えていき、世界から戦争がなくなるよう願っている。



西島 淳

①初めて
②平和について自分に出来ること考える
③多くの方々、特に若い世代の方が平和について深い考えを持ち核兵器廃絶を本気で取り組んでいる姿に感動と感謝の気持ちを持った。こうした方々の努力が原爆ドームをはじめとする多くの被爆建造物を現在に残し、未来のあるべき姿を訴えかけているのだと思った。戦後73年という歳月は自らの言葉でその体験を語り続けていただける方は減りつつあるが、その大切な言葉を将来に語り継ぐ人は増やしていかなければならないと改めて感じた。



横山 勝成

①3回目

- ②過去の戦争に学ぶことにより、平和の大切さを再認識するため
- ③原爆投下から3日後、荒れ果てた大地を路面電車が走っていた。原爆によって多くの路面電車が被災したが、懸命の努力によりわずか3日で走行可能となった。車掌が不足していたので、14歳の女学生が車掌となった。男性はほとんど戦争に駆り出され、女学生を車掌として広島電鉄家政女学校にて教育しており、入学後1ヶ月で車掌の仕事任せられ、数ヶ月の車掌経験があったのだ。戦争・原爆のもたらした悲惨さと、その時代の人々のたくましさを強く感じた日だった。



小笠原 崇



平和ヒロシマ集会



被爆路面電車学習会

①初めて

- ②戦争、原爆の悲惨さを知る、感じるため
- ③平和行動に参加をし、改めて感じた事、考えた事は、同じ過ちを二度と起こしてならないという事。原爆により一瞬にして、また戦争により多くの方が亡くなられた。その後も後遺症で多くの方が苦しんでいる。いろいろな施設を見学し、また体験談を聞く事で、今まで知っていた事をさらに、深く知る機会となった。今を生きている私たちが出来る事は、戦争の悲惨さを風化させない事。平和とは何か、命の尊さとは何なのかを、自分の言葉で話していきたい。



藤田 勇

①初めて

- ②原爆の悲惨さを肌で感じる事、被爆都市の今を知ること
- ③原爆ドームをはじめ、各施設を見学するたび、胸がしめつけられる思いで苦しくなった。中でも、平和公園内の平和記念資料館では、当時の話を聞くうちに自然と涙がこぼれて止まらなかった。被爆者の方、ご家族にとっては忘れてしまいたい日でもあり、忘れられない日でもあるが、私達は二度と同じことを起こさないためにも、この事実を後に伝えていかなくてはならないと感じた。



川西 輝明

①初めて

- ②戦争の恐ろしさを認識し、平和についての考えを深めるため
- ③被爆した小学校や原爆ドームなどを見ることができて、とても貴重な体験ができた。実際に被爆した人の話を聞き、当時の状況を思い浮かべると、今まで私が想像していたよりもはるかにひどい状況だったということがわかった。この出来事を風化させないために広島の方々の大変な努力を知ることができた。広島以外の多くの人々が日本中から来て、平和を求める行動をおこなっている姿を実際に見て、私もこの悲惨な事実を後世に伝えていく事の重要性に気付かされた。今後は、この貴重な体験を活かし、平和について、より深くかかわっていきたいと思う。



関根 孝

①3回目

- ②「平和とは何か」を感じるため
- ③戦後73年。未だ戦争は終結していない事、平和の尊さを改めて感じた。広島にはこれまで訪れた事はあるが、何度見ても原爆の悲惨さは、自分自身が感じるだけでなく、確実に後世に伝えていかなければならないと思う。生きたいのに生きることが出来なかった、色々な将来を描いていたのにその夢を引き裂かれた戦争犠牲者の方々の絶望の想いを感じ、悲惨な戦争は絶対に起こしてはいけないことを感じずにはいらなかった。平和であることに感謝し、その平和を守るため、一日一日を大切に生き行動していく事を誓った機会となった。



斎藤 昭博

①初めて

- ②自分の知らない当時の広島を学びたかった
- ③私自身、原爆による広島への被害というものはテレビや資料での知識しかなかったが、今回の平和行動に参加して、73年前、広島に落とされた原爆の恐怖やその後続いた放射線などによる被害、想像できないほどの地獄のような日々があったのだと学んだ。当事者ではない私たちが出来ることは、このような平和行動をこの先続けていき、私たち自身が今後生まれ育っていく若い世代に語り継ぎ、二度とこのような恐ろしい事態を起こさないようにしなければならぬと感じた3日間だった。



山本 聖

①初めて

- ②戦争、原爆の悲惨さを知り考えること
- ③原爆ドームでは、当時受けた衝撃を物語るコンクリートの破片ががれきとなっていて改めて原爆の脅威を思い知らされた。中でも衝撃を受けたのは、原爆が持つ放射線と熱風が音速を上回る速度と風圧で広島町の14万人の人々を一瞬にして破壊し、焼き尽くしてしまったこと、その後の被害を映した多くの写真や展示物を見てとても胸が苦しくなった。この恐怖と、戦争によって多くの人が苦しめられて生活していること、そして今日現在でも行方不明者がいることを理解し、次の世代に伝える責任があることを強く認識した。



鷺巣 智樹

①初めて

- ②平和行動に参加するため
- ③73年経った今でも辛い思いをしている人がたくさんいる事を知った。被爆電車に乗り、各被爆地を回り、平和の大切さを改めて考えさせられた。また、資料館など見学し、当時の生々しい写真等を見て、戦争の悲惨さ、原子爆弾のない平和な世界を築いていくことの重要性を強く強く感じた。



並木 美千代

①初めて

- ②平和行動を文章で見るだけでなく体験する為
- ③爆心地から460mの旧袋田小学校を見学した。焼け野原の中、家族や知人を探す伝言を当時の壁にチョークで記載してあり、当時の被爆者の想いが生々しく蘇ってくる気がする。世界でいまだ1万4千発を超える核兵器廃絶に向け過去の事だとして風化させず、世界が平和に満ちた場所になるように、活動を後世へ継続していかねばならないと強く感じた。



塚原 美臣

日程

in 長崎

参加者

1日目(8/8) ■連合2018平和ナガサキ集会
時間 15:00~17:30
会場 長崎県立総合体育館・メインアリーナ

2日目(8/9) ■長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典
時間 10:30~11:45
会場 長崎市平和公園
■ピースウォーク
時間 14:45~16:00
会場 原爆落下中心地公園・長崎市平和公園
■万灯流し
(原爆殉難者慰霊奉賛会主催・連合協賛)

牧田 晴充 (連合埼玉副会長)
保田 武利 (UAゼンセン埼玉支部)
草野 達也 (UAゼンセン/LIXILビバ労働組合)
宮田真由美 (UAゼンセン/LIXILビバ労働組合)
根本 勝美 (UAゼンセン/LIXILビバ労働組合)
加藤 博康 (JAM埼玉/北川鉄工所労働組合大宮支部)
今村 祐太 (情報労連/日本コムシス労働組合関東中部会)
岡崎 将則 (情報労連/ウインテック労働組合)
新井 通巧 (さいたま地域協議会/NTT労働組合浦和分会)
渡辺 浩志 (さいたま地域協議会/NTT労働組合さいたま分会)
山崎 行雄 (川口・戸田・蕨地域協議会/日本アンテナ労働組合)
野村 和広 (県央地域協議会/UDトラック労働組合)
椎名 孝文 (熊谷・深谷・寄居地域協議会/NTT労働組合熊谷分会)
田島 晴彦 (本庄・児玉郡地域協議会/児玉郡市教職員組合)
中村 恭一郎 (秩父地域協議会/菱光石灰労働組合)
龍口 隆二 (連合埼玉青年委員会/凸版印刷労働組合)
小林 孝徳 (連合埼玉副事務局長)

①4回目

②核兵器による惨禍と平和運動の大切さを自覚すること
③戦争が終わり、原爆投下から73年が経過した今なお、原爆の後遺症により多くの人々が苦しんでいることを改めて実感した。昭和20年8月9日午前11時2分、長崎に投下された一発の原子爆弾により街は壊滅的な被害を受け、多くの尊い人命が奪われた。私達はこの核兵器による惨禍が二度と繰り返されることのないよう、核兵器廃絶と恒久平和の実現を世界に訴え続けていかなければならない。この惨禍を風化させないよう、そして私達労働組合や平和団体が運動をけん引し続けなければならないことを強く感じた。



牧田 晴充

①初めて

②現地の方の実際の声を聞いてみたい
被爆地の見学
③実際に参加して話を聞き、現場を見てみるといかに自分の考えが情けない認識だと反省した。語り手が少なくなる中、被爆者の深堀さんが体験した内容をいかに伝えていき、自分たちが行動を起こしていくことが大事だと思った。今回、若い世代の活躍も知り、非常に頼もしく感じた。組合活動を通じて、この問題を継続して伝え、考え、行動していきたいと強く感じた。



草野 達也

①初めて

②研修のため
③恒久平和。願いは皆、同じはずなのに、自分の居住地区との平和への思いの温度差を感じた。惨状や後遺症の苦しみ、核兵器廃絶への被爆者の思いに触れ、核兵器をなくすために73年前の8月9日に何があったかを知り、戦争体験者が亡くなっていく中、戦争を知らない私達が漠然とした惨さを語るのではなく、今回の研修で得た事実を伝えなければならないと思った。



宮田 真由美

①初めて

②平和行動に興味があった
③実際に被災された方のスピーチや原爆資料館、ピースウォークでの説明など聞き、見て、改めて被災された方々の苦勞・悲しみを感じ取ることができた。この貴重な経験を組合員に伝える事は当然の事として、現地の被災者・遺族・学生達が一丸となって核兵器の廃絶・世界平和の活動に取り組んでいることも伝えていかなければならないと感じた。



加藤 博康

①2回目

②被爆した長崎を肌で感じるため
③73,884…。長崎に落とされた原爆で失われた尊い命の数である。1945年8月9日11時2分、その悲劇は起きた。なぜ非戦闘員である無抵抗な市民がそれほどの犠牲を出さねばならなかったか。平和行動に参加して思うことは、二度とこのような悲劇・惨劇を繰り返してはならないということ。そして世界で唯一の被爆国である日本は核兵器の廃絶と恒久平和に向け、常にリーダーシップをとる国であり続けねばならないということである。



保田 武利



平和ナガサキ集会

①初めて

②平和について考え、学ぶため
③平和ナガサキ集会の入り口では中学生達が署名活動、募金活動を一生懸命おこなっていたのが印象的だった。原爆被災者の方の話や平和の歌を聴くと涙が出てきた。原爆資料館では、黒焦げの死体写真を見て本当に悲しく、原爆の悲惨さを痛感した。



根本 勝美

①初めて

②原爆の悲惨さを再確認し、風化させないよう後世へ伝える知識を習得するため
③2日間の行程で特に印象的だったのが、平和ナガサキ集会の中であった、実際に被爆された方のお話で、当時の生々しい惨状がまるで目の前で起こっているかのような感覚になり、改めて原爆の恐ろしさを肌で感じた。被爆された方々も高齢化している中で、私たちが出来る事はこの悲劇を風化させず後世へ伝えていくことだと思う。この平和行動で得た事を家族、職場の方々、多くの人に伝えていきたい。



今村 祐太

- ①初めて
- ②原爆の悲惨さを肌で感じるため
- ③被爆者の方の当時の話を聞くことができ、ご本人の心の葛藤や当時の心境など、今では到底考えられないことが実際に起こったのだと思い、胸が締め付けられた。原爆犠牲者慰霊平和式典において、原爆落下時刻に黙とうを捧げることができ、今後このような悲惨な出来事が起こらないように祈るばかりだ。



岡崎 将則

- ①2回目
- ②原子爆弾投下の歴史と長崎の現状
- ③平和集会・原爆資料館・平和記念式典・万灯流し等の行事に参加するにつれて初回参加の記憶が蘇ったが、同時に世界で唯一の被爆国であるという事実が戦後73年という年月の中で、日本人の記憶の中から徐々に抜け落ちているのではないかと不安感もあったが、平和ナガサキ集会における高校生平和大使やユース代表団の若者からの力強いメッセージを聞き、次世代に戦争の悲惨さや平和の尊さが確実に引き継がれていることに安心感を覚えた。平和を守り続ける一つひとつの行動を絶やすことなく続けることが、平和を守り抜く力になることを改めて感じた平和行動となった。



渡辺 浩志

- ①初めて
- ②原爆被害を認識し、平和の尊さを再認識するため
- ③初めて訪れた長崎は、過去の戦争により、7万4千人もの人々が一瞬にして、原爆によって消えてしまった過去を感じさせない今は、キリスト教文化に彩られどか異国の情緒を感じる平和な街である。時が経つにつれ、自分の中でも祖父や父から子供のころに聞かされた戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさが、薄れているのを感じる。ピースウォークでは、当時の原爆被害の爪痕が今も残されており、原爆の凄まじさを思い知らされ、平和の尊さについて今一度、見つめなおすことが出来た。



野村 和広

- ①2回目
- ②核兵器の廃絶と世界の恒久平和のため、自分に出来ることを探すため
- ③長崎に一発の原子爆弾が投下され、熱線と爆風、恐るべき放射線により一瞬にして7万4千人余りの尊い命が奪われたあの日から73年経った。そして、今もなお多くの被爆者の方々の苦しみが続いている現実を目の当たりにした。今回参加した平和集会は、核兵器の拡散を一刻も早く食い止める必要性を世界に再認識させる重要な機会であると感じた。また戦争を知らない高校生が平和大使として全国から集まり、1万人署名や募金活動をしている姿を見たとき、自分も核兵器廃絶と恒久平和を後世に伝えるひとりになりたいと思った。「過去は変えられないが未来は変えられる」悲惨な戦争が二度と繰り返すことのないよう願うばかりだ。



椎名 孝文

- ①初めて
- ②連合平和行動を学ぶ
- ③集会と式典では被爆者から経験談を聞き、しっかりと後世に伝えていかなければならないと感じ、平和行動の気運が高まった。また、参加者のみなさんと3日間、平和ナガサキ集会、祈念式典、ピースウォーク、万灯流しを経験し、私自身も成長することができて良い思い出となった。



中村 恭一郎

- ①4回目
- ②次世代へ継承するための運動を強化していくこと
- ③平成最後の夏に訪れた暑い暑い長崎は、原爆犠牲者の冥福と平和を願う祈りが呼応し神聖な雰囲気を漂わせているかのように感じた。この時期特有なムードと思いつつ、心の構えを正し、連れ立った仲間と共に原爆の脅威と平和の尊さについて体験したことは、私にとってまたとない貴重な経験を積む機会となった。



新井 通巧

- ①3回目
- ②原爆の悲惨さを再認識するため
- ③これまでメディア等で平和の大切さ、原爆の恐ろしさを感じてきたが、現地の様々な場面を肌で感じ、より核兵器廃絶・恒久平和の実現に向けた活動の大切さを学ぶことができた。被爆者の訴えとして深堀譲治さんの講演では、改めて当時の悲惨な状況を知ると同時に、このような悲劇が二度と繰り返されてはならないと感じた。また被爆73年が経過した今、当時を語る事が出来る「語り部」の方々の平均年齢も80歳を超え、活動の継承が課題となっていることが徐々に困難になって来ていることも感じた。浦上川での「万灯流し」では灯籠に平和メッセージを書き、平和への思いをより強く感じた一日となった。



山崎 行雄



万灯流し



折り鶴の献納

- ①5回目
- ②被爆地長崎での間接体験と連合埼玉の仲間との交流
- ③連合長崎の案内によるピースウォークに参加し、パンフレットを見ながら、熱い思いが込められたモニュメント等を見て回り、これらを通して全世界に核兵器の恐ろしさや平和の思いを発信し続けている。平和記念式典にあわせて、現地での案内付きの行動はたいへん有意義な学習となり、世界の恒久平和をより希求する思いとなった。



田島 晴彦

- ①2回目
- ②長崎の古今を確認するため
- ③被爆された方々は年々減り、核兵器廃絶運動を牽引してきた方々や語り部さんも減り続けている。いずれは被爆体験者がいなくなる時が来ることだろう。そうなれば、原爆の悲惨さ、戦争の愚かさを実体験をもとに伝える事は出来ない。残された我々が引き継ぎ、語り継ぎ、後世へ伝えて行かなければならない。また、戦争の愚かさを伝えて行くうえで、原爆の悲惨さだけを伝えるのではなく、戦争になったきっかけ、日本の、世界の犯した過ちも同時に伝え、核兵器のない世界、戦争の無い世界にするべく、行動して行きたい。



龍口 隆二

公労使で取り組む『働き方改革』で地域の活性化を目指そう!

～ 2018地域フォーラム開催 ～

7月31日(火)、大宮ソニックシティビル4階「市民ホール」にて、労働組合役員、企業経営者、埼玉県、埼玉労働局の関係者など125名の参加のもと、埼玉県経営者協会・埼玉県との共催で2018地域フォーラムを開催した。このフォーラムは中小企業の活性化を地域の活性化に結び付ける目的で2016年より開催しているものであり、本年で3回目の開催となる。

本年は「公労使で取り組む『働き方改革』で地域の活性化を目指そう」と題し、(株)日本総研理事 山田久氏による基調講演「働き方改革関連法案の概要と労

使の課題について」ののち、労働組合、企業の取り組み報告としてテイ・エス テック労働組合 須崎執行委員長、(株)島忠人事部 田中部長より報告があった。最後に埼玉県産業労働部 新里雇用労働局長より、埼玉県公労使会議の取り組み内容の報告をいただいた。

先の国会で「働き方改革関連法案」が成立したが、労使双方がその趣旨を正しく理解し、各社の事業運営、制度改革に反映していく必要があることを共有できる有意義な場となった。



講演する
日本総研
山田理事

事例報告する
テイ・エス テック労働組合
須崎執行委員長

事例報告する
(株)島忠
田中人事部長

報告する
埼玉県産業労働部
新里雇用労働局長

挨拶する
近藤会長

挨拶する
埼玉県経営者協会
上條会長

ネットワークSAITAMA21運動

夏休み親子自然体験教室2018「山の学校inときがわ」

親子で自然に触れることにより自然環境の大切さを学ぶことを目的に、夏休みを利用して『山の学校 in ときがわ』を8月4日(土)に開催した。

「ふれあいの里たまがわ 川の広場バーベキュー場」に、組合員とその家族、東日本大震災の避難者およびスタッフを含め163名の参加があった。今年は午前中に、バーベキュー場で川遊びをするグループと、ときがわ上流で川遊び(小学生以上限定)をする2コースを準備した。参加した子どもたちは、川水の冷たさを感じながら自然や生き物とのふれあいを思う存分楽しむことができた。

午後からの2グループが合流してのバーベキューでは、参加者自らが火おこしをおこなうなど、悪戦苦闘しながらも、家族で協力して調理し、食べるバーベキューは格別なものとなった。

その後、普段なかなかできない竹を使っての流しそうめん子どもたちは大喜びだった。

また、子どもたちによるスイカ割りをおこない、甘いスイカを参加者全員で味わうこともできた。

いまでも豊かな自然が残るときがわで、家族とともに過ごす1日は、子どもたちにとって思い出に残る貴重な経験となったことであろう。



みんなで川遊び



毎年好評の流しそうめん



スイカ割り

平成30年度 埼玉県最低賃金の改正決定について

埼玉地方最低賃金審議会は、本年7月3日(火)に埼玉労働局長から「埼玉県最低賃金の改正決定について」の諮問を受け、埼玉県最低賃金専門部会を設置し調査審議をおこなってきた。この審議会は本年7月26日(木)に中央最低賃金審議会より示された「平成30年度地域別最低賃金額改定の目安に関する公益委員見解」等を踏まえ、公労使での真摯かつ慎重な審議の結果、8月6日(月)に埼玉労働局長に対し、埼玉県最低賃金額を「時間額898円」とする旨の答申をおこなった。

この時間額898円は、現行の埼玉県最低賃金(871円)を「27円」引き上げるもので、上昇率は3.10%であり、時間額で決まるようになった平成14年度以降では、上昇率・上昇額共に最大の引上げ幅である。今後、諸手続きを経て本年10月1日より効力を発生する予定となっている。

【参考：埼玉県最低賃金額及び対前年度上昇率・上昇額】

	平成28年度	平成29年度	平成30年度(答申)
時間額	845円	871円	898円
対前年度上昇額	25円	26円	27円
対前年度上昇率	3.05%	3.08%	3.10%

現在予定される9月の日程表です

9月	行事等	
	連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日 土	①埼玉シニア連合「第8回ボウリング大会」(10:00～・浦和スプリングレーンズ) ②災害ボランティア救援隊「隊員研修(中級編)」(13:15～・埼玉県防災学習センター)	
2日 日		
3日 月		「2019年度重点政策実現の取り組み方針」策定に関する地方連合会との意見交換会(15:00～・連合会館)
4日 火	第10回四役・執行委員会(10:00～・13:00～・全労済埼玉推進本部)	
5日 水	第2回最低賃金担当者会議(13:30～17:00・あけぼのビル3F)	
6日 木	第2回地協議長・事務局長会議(14:00～・あけぼのビル5F)	埼玉労協協議会(10:00～・ときわ会館)
7日 金	平和行動in根室(～9日・根室市)	
8日 土	ネット21「2018年度地域セミナー」(13:30～・浦和コミュニティセンター)	電機連合埼玉地協「第58回定期大会」(13:00～・ときわ会館)
9日 日		
10日 月	女性委員会「第7回幹事会」(18:30～・連合埼玉会議室)	
11日 火		運輸労連埼玉県連「第51回定期大会」(13:30～・全労済埼玉推進本部)
12日 水		①退職者連合「2018高齢者集会」(13:00～・文京シビックホール) ②地方連合会事務局長会議(13:30～・連合会館)
13日 木	第28回チャリティーゴルフ大会(おおむらさきゴルフ倶楽部)	①退職者連合「2018年地方代表者会議」(8:30～・ホテルルポール麹町) ②秩父地域協議会「第11回幹事会」(18:00～・勤労者福祉センター)
14日 金	第9回官公労部門連絡会(18:30～・連合埼玉会議室)	
15日 土		
16日 日		
17日 月		
18日 火	第4回ライフサポートステーション運営会議(10:00～・連合埼玉会議室)	
19日 水	①埼玉県に対する「政策・制度要請書」提出(10:00～・埼玉県知事室) ②金属部門連絡会「第3回幹事会」(15:30～・連合埼玉会議室)	
20日 木	埼玉シニア連合「第5回四役会・第6回幹事会」(13:00～・14:30～・連合埼玉会議室)	
21日 金		①関東ブロック「2018政策フォーラム」(13:30～16:30・ワークピア横浜) ②比企地域協議会「政策制度研修会&幹事会」(～22日・福一) ③電機連合埼玉地協「東日本大震災ならびに熊本県を中心とする九州地震復興支援」 第25回チャリティーゴルフ大会(東松山カントリークラブ)
22日 土		
23日 日		
24日 月		
25日 火		
26日 水	第4回組織委員会(10:00～・連合埼玉会議室)	連合「第3回構成組織・地方連合会女性代表者会議」(13:30～・連合会館)
27日 木		
28日 金		
29日 土	①ネット21「2018年度地域セミナー」(13:30～・所沢子どもと福祉の未来館) ②JCM埼玉「親子ものづくり教室」(13:30～・ものづくり大学)	比企地域協議会「第5回チャリティーゴルフ大会」(大森生ゴルフ場)
30日 日		

Akebono Building

あけぼのビル

| 事務局長 |

| 佐藤 道明 |

◆平成最後の「終戦の日」

戦後73年目の8月15日は平成最後の「終戦の日」となった。天皇皇后両陛下は、日本武道館で開かれた政府主催の全国戦没者追悼式に出席された。

天皇陛下は1989年の即位以来、国内外の戦没者の慰霊を「象徴天皇」の重要な役割と位置づけられている。終戦記念日のほか、沖縄慰霊の日(6月23日)、広島・長崎の原爆忌(8月6、9日)とともに、「日本人として忘れてはならない4つの日」として、一度も欠かさず追悼式への出席を続けられてきた。

陛下は在位中最後となる追悼式のお言葉で「戦後の長きにわたる平和な歳月に思いを致しつつ」と振り返り、今年も先の大戦への「深い反省」に言及されるとともに、不戦の誓いを次世代へつなぐという強い願いを込められた。

政府は、8月15日を「戦没者を追悼し平和を祈念する日」と定めており、戦没者を悼むとともに、平和国家としての道を歩み続けると誓うことも、追悼式に課せられた重要な役割である。だからこそ日本は戦争を起こした過去を反省し、再び軍事大国にはならないと発信し続けなければならない。

◆安倍首相「加害責任」に言及せず

しかし、時の首相が追悼式で、アジア諸国への日本の加害責任を認めるまでには長い年月を要した。式辞で加害責任の反省に触れるようになったのは1994年の村山富市首相からだ。そして、損害と苦痛を与えた主体を「わが国」と明確にして加害と反省の意を表したのは、2001年の小泉純一郎首相が初めてであり「わが国は、多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大の損害と苦痛を与えました」と述べている。

それ以降の首相は小泉氏を基本的に踏襲し、8月15日に加害と反省の意を表明してきた。安倍晋三首相も第1次内閣の2007年には、「戦争の反省を踏まえ、不戦の誓いを堅持する」と述べたが、第2次政権発足後の2013年からは「加害」「反省」などの文言は消えていく。

今年の式辞でも「戦争の惨禍を二度と繰り返さない。歴史と謙虚に向き合い…」と述べてはいるが、6年連続で加害と反省には言及していない。

安倍首相は戦後70年の2015年8月14日に閣議決定した首相談話で「私たち日本人は、世代を超えて、過去の歴史に真正面から向き合わなければなりません」と述べつつ、その前段では「あの戦争には何ら関わりのない、私たちの子や孫、そしてその先の世代の子どもたちに、謝罪を続ける宿命を背負わせてはなりません」とも明言

している。

子や孫、その先の世代の子どもたちに、謝罪を続ける宿命を背負わせないためにも、過去の歴史に真正面から向き合わなければならないのではないのか。追悼式の式辞で加害と反省に言及しないことは、謝罪を続ける必要はない、という本音の表れなのだろうか。これでは加害への反省を忘れたかのように受け取られても仕方があるまい。

また、安倍内閣が2013年12月に定めた「国家安全保障戦略」では「我が国は、戦後一貫して平和国家としての道を歩んできた」「こうした我が国の平和国家としての歩みは、国際社会において高い評価と尊敬を勝ち得てきており、これをより確固たるものにしなければならない」と、日本の進むべき道を明確にしている。

国際社会からの高い評価と尊敬を確固たるものにするには過去を振り返り、自省し、二度と戦争をせず、再び軍事大国にはならないという決意を、終戦の日という節目に、指導者自ら発信し続けることが必要ではないのか。

◆昭和から平成、そして次の時代へ

来年4月末の退位で平成は終わりを告げる。全国戦没者追悼式に集ったご遺族や関係者から、「昭和」がますます遠のいていくことを痛感させられた。平成元年の1989年は「戦没者の妻」が出席者の約半数を占めたが、今年には10人余りとどまり、子や孫の世代が目立ち、戦後生まれが全体の約3割となった。

年月の経過とともに終戦記念日に対する人々の意識は変化している。かつては祖父母が孫に自身の戦争体験を伝え、記憶を継承してきたが、今や祖父母世代も戦後生まれという時代。戦後50年ぐらまでは「8月15日」の認識に世代間のギャップがみられたが、戦争の直接の記憶が失われつつある中で、世代間の意識の差はなくなりつつある。

戦後、日本人は戦争を絶対悪と捉え、反戦という点では価値観を共有してきた。毎年8月になると、映画やドラマはこの日を時代の節目として描き、反戦・平和へのメッセージ一色となった。そこには異論を差し挟む余地はなく、戦後が始まった特別な日に対する意識はほぼ全世代で均質化してきたとも言える。

一方、時代の変わり目、戦争体験者の減少と高齢化で記憶の継承は難しい課題となっている。8月15日は知っていても、戦争がいつ始まったか問われて、12月8日と即答できる日本人がどれだけいるのだろうか。8月15日の意味を問い直すことは日本人が戦後、どのように戦争と向き合ってきたかを考える契機になる。昭和の戦争を平成の時代も語り継いだように、先の大戦への深い反省と不戦の思いを、次の時代にも語り継いでいくことが、今を生きる私たちの責任であることを改めて感じた平成最後の「8月15日」であった。

2018.8.23